



沖縄県知事  
仲井眞 弘多

## 「世界に開かれた交流と共生の島」 を目指して

沖縄県は今年、日本復帰40周年を迎え、新たな振興計画である沖縄21世紀ビジョン基本計画がスタートいたしました。同計画において、「世界に開かれた交流と共生の島」を目指して、沖縄の持つ地理的・歴史的特性を活かし、経済、学術、文化等の各分野でアジアをはじめ海外との交流と連携を深め、共に発展していく社会の構築に取り組んでいくこととしております。

このような中、本県では今年5月に、「第6回太平洋・島サミット」が開催され、この中で採択された「沖縄キズナ宣言」では、大洋州に対する国際協力に、沖縄の知見を活用していくことが盛り込まれました。また、沖縄本島から離れた宮古島市では、「高校生太平洋・島サミット」が開催され、同サミット参加国の高校生たちが、野外学習などを通じて水環境問題について学び、その成果を各国首脳に提言いたしました。こうした一連の会合を機縁として、これらの国々との交流や協力関係を築き、沖縄県の技術やノウハウを積極的に役立てていきたいと考えております。

沖縄県は、先人達が広く海外に活躍の場を求め、南米や北米など五大陸に渡り、それぞれの地で困難を克服しながら、強固な沖縄県人社会を築き上げてきた歴史を有しております。世界で活躍するこれら県系人は現在、約40万人に達しており、国を越えて強い絆で結ばれております。昨年10月、5年ぶりに開催された「第5回世界のウチナーンチュ大会」には、約5,300名の県系人が母県に集い、県民との交流を満喫しました（※「ウチナーンチュ」とはオキナワの人を意味する方言）。

このように海外と深いつながりを持つ沖縄県には、古くから世界に開かれた島としての伝統があり、県民には世界との架け橋となることを意味する「万国津梁」の精神が脈々と受け継がれております。

グローバル時代を迎え、世界との交流の必要性はより一層高まっております。本県としては、県民が誇りとする万国津梁の精神の下、世界の国々や地域に広がる「ウチナーネットワーク（県系人だけでなく、オキナワをキーワードに集う各界各層の関係者を取り込んだネットワーク）」を有機的に活かしつつ、このような時代の潮流を迅速にとらえ国際化を推進する施策や事業を積極的に展開していくことによって、本県の経済や文化等の振興を図り、日本だけでなくアジア太平洋地域の発展に貢献していきたいと考えております。

今後とも、関係各位の皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。